

令和 3 年(2021 年)10 月 14 日

部（局）長 各位

市 長

令和 4 年度（2022 年度）予算編成について（通知）

1 宝塚市行財政経営方針に基づく基盤強化の取組

本年 7 月に策定した宝塚市行財政経営方針では、これからの時代にふさわしい行財政経営を実現し、市民が日々の暮らしに豊かさを実感できる価値を創造していくためには、財政基盤、組織基盤、デジタル・データ基盤の 3 つの基盤が重要であり、これらを令和 3 年度（2021 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までの 3 カ年で強化するとしています。

今後の行財政経営においては、まずは経営基盤の強化に向けて全庁一丸となって取り組んでいく必要があります。

2 本市の財政課題

本市の歳入の根幹である市税収入について、令和 2 年度決算においては、前年度より増となりましたが、今後の新型コロナウイルス感染症による影響については、未だ先行きが不透明な状況です。また、本年 8 月末に総務省が作成した「令和 4 年度地方財政収支の仮試算」では、地方交付税は微増と見込まれるものの、臨時財政対策債は対前年比で 40.2%の減と見込まれるなど、予断を許さない状況です。

一方、歳出について、本市が保有している多くの建物施設やインフラ施設の老朽化に対応するための維持・更新費用が多額となり、今後は地方債発行額の増加が見込まれることや、高齢化に伴い社会保障関連経費が増加することなどにより、財政構造の硬直化が続きます。このほか、新ごみ処理施設の建設、市立病院の経営健全化と将来のあり方の検討、土地開発公社の経営健全化など、課題は山積しています。

3 予算編成の基本方針

令和 4 年度の予算編成は、本市が抱える様々な財政課題に対応していくため、行財政経営基盤を強化していくことを基本として進めます。

その上で、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえつつ、コロナ禍の先にある新たな時代に適合した市政の実現を目指して、これまでの考えにとらわれない新しい発想で、市民の視点をもって各事業を見つめなおし、時代にふさわしい事業実施となるよう取り組むことで、市民の皆様に寄り添い命と暮らしを守るとともにまちの活性化を図り、第 6 次宝塚市総合計画を着実に推進していく予算編成とします。